

2021年度 日本工学院専門学校											
声優・演劇科											
舞踊Ⅰ											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	花柳寿芽月、花柳寿愛理、花柳雅江輔			実務経験	有	職種	日本舞踊				
授業概要											
日常生活では体現が難しくなってきた伝統文化に触れる。日本独自の芸能の一つである日本舞踊を実体験することで特に江戸文化の芸術構造や美意識を理解できるようになることを目的とする。また和服（着物）を身にまとう習得により俳優、声優問わず和物の舞台映像等に活用し自己アピールする特色の一つを増やす。											
到達目標											
日本舞踊は主として三味線音楽の旋律、情感に身体をのせて表現するもので先ず踊る身体作りの基礎を習得する。基礎動作を繰り返し練習することで三味線音楽独特の”間”-ま-と云うものを理解し実践する。基本練習習得の中から踊りの表現の方法を知り物云う身体（ボディランゲージ）を習得する。											
授業方法											
先ず実技を始める前に日本舞踊の成立や古典芸能と呼ばれる日本文化のあらましを配布するプリントを参照して講義する。日本舞踊を練習する上で欠かせない着物の着方、またしまい方（たたみ方）等を学び繰り返し練習することで体にフィットした着物姿を実現していく。付随して扇子や手拭いの扱い方を学び日本舞踊の基礎（メソッド）として花柳園喜輔が考案した「踊り解体新書Ⅰ、Ⅱ」を実践し身体で表現することを教える。											
成績評価方法											
実技テスト 90％ 課題舞踊を試験し技術、情感等総合的に評価 平常点 10％ 積極的な授業への取り組み、授業態度により評価 ※授業を休まないこと、85%以上出席しない場合は実技試験の受講を認めない。											
履修上の注意											
伝統芸能の修練は「礼に始まり礼に終わる」の格言があるようにしっかりとした挨拶の習慣を認識する。そして教わる者、教える者双方の礼儀の一環として感謝の心をもって行うことだと理解し和 문화が大切にしている自然への畏敬、人と人との和合を計る上で大事なことだと理解させる。											
教科書教材											
日舞セット（着物、手拭い、扇子）											
回数	授業計画										
第1回	日本舞踊の概要、授業内容の説明、「日本舞踊の成り立ち」、「着物の名称・たたみ方」を用いた講義										
第2回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技 三味線音楽を感じる。										
第3回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技 三味線音楽に合わせて身体を動かす。										
第4回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技 日本舞踊らしい身体表現を知る。										
第5回	「踊り解体新書Ⅰ」の実技 日本舞踊らしい身体表現に挑戦する。										
第6回	着物の着付け・たたみ方 和服の構造を知る。										

2021年度 日本工学院専門学校	
声優・演劇科	
舞踊 I	
第7回	着物の着付け・たたみ方 和服を着て体感する。
第8回	「踊り解体新書Ⅰ・Ⅱ」と扇子の扱い方 新しい三味線音楽に触れ違いを感じる。扇子のマナーと特徴を知る。
第9回	「踊り解体新書Ⅰ・Ⅱ」と扇子の扱い方 三味線音楽の違いに合わせた身体表現を考える。扇子について考えて扱う。
第10回	「踊り解体新書Ⅰ・Ⅱ」と扇子の扱い方 和服で踊る研究をする。扇子の表現を知る。
第11回	「さくら」女踊りに挑戦する。
第12回	「さくら」女踊りの表現について考える。
第13回	「お江戸日本橋」男踊りに挑戦する。手拭いを扱う。
第14回	「お江戸日本橋」男踊りの表現について考える。
第15回	まとめ 「さくら」「お江戸日本橋」のまとめ